

早稲田大学 図書館紀要

第 66 号



ステークホルダーとしての利用者

図書館長 深澤良彰

二〇一七年十二月、早稲田大学において、OCLCのARPCO17が開催された。早くもそれから一年が過ぎ、ARPCO18がバンコクで開催された。今回のテーマは、「いかに図書館という組織を変えるか」であった。その冒頭、OCLCのスキップ・リチャード社長の講演があり、そのための方策がいくつか示された。その中には、図書館の文化を変える、考え方を変える、自分を変えるなどの具体策が含まれていた。ただし、提示された資料の中には、主語がなかった。話の中では、時々「You」と言っていた。この「You」とは誰なのであろうか？

責任逃れをする気はない。図書館長、副館長は明らかにこの中に含まれるであろう。管理職を含む図書館職員も同じである。プレゼンを聞いていて、疑問に思ったことは、この「You」の中に、図書館の一般利用者が含まれるかどうかである。ARPCの場合には、参加者は基本的に図書館職員だけなので、この講演の中では含まれていないように思う。しかし、図書館は利用者に対するサービス機関であることを考えた場合には、ステークホルダーとして必須であり、外すことはできない。購入希望をとるなどというレベルではなく、「いかに図書館という組織を変えるか」という本質的な点から利用者を取り込むことを考えていきたい。

2019 年 3 月